R5.12.2

芽室サテライト
とかち熱中小学校 vol.02

宮永　真幸
札幌テレビ放送アナウンサー

「言葉の壁、よく見たらその壁には取っ手がついてはいませんか。言葉の壁は、言葉の扉になれるのです。」

伝える＝伝わる ではない

日本語教師としてベトナムで授業を行ったこともある宮永氏は、「やさしい日本語」について講義した。これは外国人や高齢者、障がい者にわかりやすく伝えるために広まった。きっかけは阪神淡路大震災、逃げ遅れた日本人の２倍の人数、外国人が逃げ遅れていた。今や日本に住む20代の1割は外国人、身近な生活者である。
「何をお召し上がりになりますか。」よい分かりやすく伝えるにはどう言い換えるといいだろう。やさしい日本語のポイントは、はっきり、短く、大胆に言うこと。「何が食べたいですか。」でいい。
外国人だからといって無理に英語で話そうとしなくても、簡単に言い換えれば、伝わることもある。

メディアの変遷

普段、どんな媒体から情報を得ているだろうか。新聞、テレビ、ラジオ、ネット。
スマホの発売はネット情報社会に拍車をかけた。これは個人の電話でありながら、個人のコンピュータ、ゲーム機にもなり得る。
デジタル報道の利点は量的、時間的、機能的な制約が少ないこと。過去の記事をたくさん残しておくことができ場所もとらない、おまけにすぐ探せる。世界中で読まれているニューヨークタイムズ紙のオンラインでは創刊時1851年の記事から閲覧できる。
国内の新聞で言えば、全国紙より地元密着型の新聞のほうが根強い。過去20年間での「かちまい」購読者数の減少率は新聞全体の減少率より小さいという。
ネットと新聞、場合に応じて情報を収集してほしい。

校條　諭
メディア研修者

「ネット情報の真偽を見極めることは無理。大事なのは、信頼できるものを自分の中で決めておくこと。」